

全国協議会 ニュース

2009年1月1日発行 第199号

発行所 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒160-0005 東京都新宿区愛住町23-1 Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217 FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marrow.or.jp/ E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座 00150-4-15754 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

新年のご挨拶

全国骨髄バンク推進連絡協議会 会長 大谷貴子



新年、あけましておめでとうございます。今年も、どうぞよろしく願っています。

昨年は、骨髄バンクへのご登録者が30万人になったことになりました。ご提供者が1万人に、心に残る一年となりました。あらためまして、骨髄バンク事業を様々な形で応援してくださいました方々、皆様から感謝を申し上げます。

さて、今年も、昨年よりさらに飛躍をしなければなりません。そのためには山積している課題、例えばドナー休暇制度の拡大など提供環境の整備に向け、早急に解決していきたいと考えております。それは、すべて患者さんの笑顔につながります。

今年も、患者さんの笑顔をまぶたに浮かべながら、一段、一段、階段をあがるように邁進して参りたいと存じます。どうぞ、今年も、皆様方のお知恵とお力を拝借し、よろしくお願ひ申し上げます。

厚生労働省健康局疾病対策課 臓器移植対策室長 峯村芳樹
新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり、一言ご挨拶をさせていただきます。

白血病などの血液難病の患者の方々に骨髄移植の機会を広く公平に提供することを目的とする骨髄バンク事業は、今年度、事業開始から18年目を迎えます。この間、会員の皆様方をはじめ多くの関係者の方々の御尽力により、ドナー登録者は32万人を超え、また、骨髄バンクを介して行われた骨髄移植は1万例を超えました。

これもひとえに、ドナー登録をされた方々や実際に骨髄を提供された方々の善意はもろろんのこと、バンク事業に携わる関係者の方々に全国各地でバンクを支えていただいているボランティアの皆様方の御理解、御支援の賜物であります。

また、貴協議会におかれましては、ドナーや患者の方々が抱える不安や疑問について相談窓口を設けるといったサポート活動のほか、骨髄移植一万人・さい帯血移植五千例の到達を記念し、各地で行われる「ありがとうキャンペーン」の開催など、骨髄バンクの普及啓発に広く貢献されてきました。これらの活動に対し、この場をお借りいたしまして深く敬意と感謝の意を申し上げます。

厚生労働省臓器移植対策室といたしまして、より一層ドナー登録への理解が進むよう、今後とも関係機関と連携して普及啓発活動等による事業の推進に努めてまいりますとともに、移植希望者数並びに移植件数の

増加に対応するため、あつせん体制の強化を図り、一人でも多くの患者さんが骨髄移植を受けられるよう、造血幹細胞移植対策に全力で取り組んでまいります。結びに、貴協議会のますますの御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。ともに、会員皆様方の御健康、御活躍を心より御祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。



財団法人骨髄移植推進財団 理事長 正岡 徹

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年1月にドナー登録者が30万人に到達し、12月には仲介した骨髄移植が累計一百万例に到達いたしました。また、年間の移植数も一千百例を超え過去最高となり、着実に実績として伸びてきております。これらはボランティアの皆様や関係者のご尽力の賜物であり、厚くお礼を申し上げます。しかし、登録患者数は増加する傾向にある中、移植率は約六割にとどまっております。

本年も、ドナー登録を更に推進するとともに、より一層のコーディネート期間短縮やドナー安全対策の強化などに努めてまいります。日本赤十字社 血液事業本部長 西本 至



日本赤十字社 血液事業本部長 西本 至

謹んで新年のお慶びを申し上げます。我が国の骨髄バンク事業は多くの皆様にご協力いただき、有効ドナー登録者数は目標の30万人、骨髄移植数も一百万例という一つの区切りを迎えました。これも偏に貴協議会をはじめ、全国のボランティアの皆様や関係者の皆様のご尽力の賜物と深く敬意を表します。

しかし、まだ大勢の患者さんが移植を待ち望んでおられ、これは一つの通過点に過ぎません。日本赤十字社では、今後とも登録受付窓口のより良い環境づくりや検査体制の一層の充実を図り、関係者の皆様と一丸となって骨髄バンク事業の更なる伸長に向けて取り組む所存です。最後に、貴協議会のご発展と皆様のご健勝を祈念して、挨拶とさせていただきます。

日本さい帯血バンクネットワーク 会長 中林正雄



日本さい帯血バンクネットワーク 会長 中林正雄

新年明けましておめでとうございます。日本さい帯血バンクネットワークは、平成11年8月に発足して以来、11のさい帯血バンクと共同事業を展開しているところです。昨年12月にはさい帯血バンク事業を紹介したさい帯血の移植症例が

てまいると思います。これからも、骨髄移植を必要とする患者さんのため、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

五千例を超えました。今では、骨髄移植と共に、造血幹細胞移植医療を支える重要な治療法となっております。これからも骨髄バンクとこれまで以上に密接な連携を保ち、移植を待つ患者さんのために共に努力し、一層の発展を目指していききたいと思います。さい帯血バンク事業に対するますますのご理解とご支援をお願いします。また、新年が皆様にとりまして、より良い年となりましますよう祈念いたします。



全国骨髄バンク推進連絡協議会 理事長 中野勝博

年始にあたり、旧年中に皆様から賜りましたご支援ご協力に対し、厚く御礼申し上げます。昨年を振り返りますと、骨髄バンクへのドナー登録者30万人の達成、非血縁者間の骨髄移植一百万例、さい帯血移植五千例と、メモリアルな数字にスポットが当たる年、まさに「ありがとう」の感謝を実感した一年でありました。患者さんに勇気と生きるチャンスを与えていただいた多くのドナーさん、関係機関の皆様のご尽力の賜物と、真摯に受け止めております。全国協議会では「ありがとう」キャンペーンとして全国リレー記念植樹などを展開し、より一層の造血細胞移植の推進にご理解を

心からのご寄付に 感謝申し上げます

11月21日~12月20日

㈱タクトコーポレーション	現金	10,000円
㈱エイコー堂	現金	100,000円
豊島区明るい社会づくりの会	現金	100,000円
宮代町立百間中学校生徒会	現金	26,936円
宮代町立百間中学校PTA	現金	20,000円
鹿児島市立吉田南中学校	現金	30,311円
塩谷 圭	現金	1,000円
山田康博	現金	9,880円
鈴木純子	現金	1,340円
飛田行康	現金	11,000円
匿名	現金	20,000円
匿名	現金	5,000円
匿名	現金	5,000円
匿名	現金	68,222円
hide memorial summit出演者の皆様	現金	1,420,000円
セシリア音楽教室 東海林知津子	現金	100,000円

●白血病患者支援基金

㈱グルメシティ北海道万代店	現金	3,466円
すみれ薬局	現金	5,269円
骨髄バンク、GATHERの会	現金	8,695円
徳島藍ライオンズクラブ	現金	7,000円
さかえ薬局	現金	3,640円
たにぐち薬局	現金	7,302円
匿名	現金	35,500円
匿名	現金	81,268円
㈱金寿司	現金	18,000円

●佐藤さち子患者支援基金

松本敏子	現金	3,000円
「Beads Stand」佐藤久美子	現金	7,000円 (敬称略)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655
郵便振替口座 00150-4-15754
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会

ブロックセミナー報告 第二弾

●東北北陸地区
12月6日、東北北陸ブロックセミナーが名古屋市中区総合福祉会館小会議室にて開催されました。三重2名、岐阜3名、愛知11名が参加し、患者相談、支援のあり方について議論しました。当日はあいちの会主催の患者相談会も開催し、患者さん、ご家族との直接的な関わりも体験しました。各団体、支援の難しさを議論し、今後の活動のヒントを得たような気がしました。

講演会は移植後の合併症について、安城更生病院血液内科 澤正史先生、名古屋第一赤十字病院婦人科 安藤智子先生のお話をうかがいました。私自身



各地のたよりを 写真を添えて お寄せください。

各地のたより

宮崎 青島から都城へ いま宮崎が熱い!!
12月14日、第22回国際青島太平洋マラソン会場にて、本会議主催の骨髄バンク啓発活動と、宮崎県中央保健所さん主催の骨髄バンクドナー登録会にてボランティア活動して参りました。前日の選手受付時より「骨髄バンク知っていますか?」と「全国骨髄バンクボランティアの集いin都城 来年5月開催」のゼッケンを付けて走っていた

りたと思います。どうぞご支援ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

もまだまだ知識不足だと痛感し、今後の患者さん、ご家族との関わりにも大きく役にたつ内容となっていました。(あいち 水谷)

ころ、多くのランナーさんが自主的に「付けて走ります!」と申し出てくれました。ランナー、そして沿道の多くの方々の目に触れていただけたことを嬉しく思います。また、ドナー登録していただいた21名の皆さん、説明を聞いて下さった皆さん、そして、国際青島太平洋マラソンの主催者の皆様に感謝いたします。

ゲストラランナーとして走られた東国原英夫知事(フル)、河野俊嗣副知事(ハーフ)、往年の名ランナーである山田敬蔵さん(ハーフ)と君原健二さん(フル)、特別参加のエリック・ワイル、特別参加のエリック・ワイル、特別参加のエリック・ワイルらが、大いにイベントを盛り上げてくださいました。そして、今回一万二千名という全国からランナーとして参戦されました皆様……お疲れ様でした。たくさんのファイトと思いやりの輪に……感謝!感謝!感動! また次回もお会いしましょう! (中村)



非血縁者間
骨髄移植
10,000例・
さい帯血移植
5,000例到達

ありがとうキャンペーン第一弾 銀座で記念パレードと 街頭宣伝活動

1993年1月に日本骨髄バンク第一例の骨髄移植が、そして1997年2月に国内初の非血縁者間さい帯血移植が行われました。そして2008年12月2日、さい帯血バンクを通じた移植が五千例に、翌3日には骨髄バンクを通じた移植が一万例に到達しました。



「ありがとうキャンペーン」の感謝の言葉を届け、そしてこれをきっかけに、今も移植の機会を待ち続けている方のごとや、「いのちの大切さ」について多くの方に思いをめぐらせていただくことを願って「骨髄移植一万例・さい帯血移植五千例ありがとうキャンペーン」を開始いたしました。

非血縁者間
骨髄移植
10,000例・
さい帯血移植
5,000例到達

厚生労働省で記者会見

12月4日、厚生労働省記者クラブにおいて、12月2日のさい帯血移植五千例到達と、翌3日の骨髄移植一万例到達を報告する記者会見が開かれました。正岡徹骨髄移植推進財団理事長の司会のもと、小林正雄日本さい帯血バンクネットワーク会長と中野勝博全国協議会理事長が同席し、これまでの経緯が報告され、今後更なる充実が期待される造血細胞移植医療に対する国民への協力が呼び掛けられました。

「ありがとうキャンペーン」実施計画を発表し、マスコミの皆さんに報道を通じた協力を要請しました。

引き続き、全国協議会として、元気になった患者さんと提供したドナーさんにも出席いただき、これから全国各地で展開する「ありがとうキャンペーン」の記者発表を行いました。阪神大震災の3日後に骨髄移植を受けて元気になった名川和志さん(兵庫県在住)は、「震災で大変な中、多くの方々の協力があって無事に移植が行え今の自分がある。多くの方に感謝している」とコメント。成人でのさい帯血移植第一号である佐藤ときえさ



さん(埼玉県在住)は、「小児への治療が中心だったさい帯血移植が今や成人の男性、高齢者の移植に広がり、着実に成績をあげている」と報告、そしてドナー代表として全国協議会理事長でもある大橋一三さんからはドナー登録への更なる協力が呼びかけられました。普事務局長からは「ありがとうキャンペーン」実施計画を発表し、マスコミの皆さんに報道を通じた協力を要請しました。

当日はこれ以上は望めないという程の晴天に恵まれ、厚生労働省、日本赤十字社、骨髄移植推進財団、さい帯血バンクネットワークなど、これまで造血細胞移植事業に携わった関係者の皆様にも多数ご参加いただきました。一番嬉しかったことは、このような行事に初めて参加したという方がたくさんいらっしゃったことです。私達の知らないところでいろいろな方が呼びかけをして下さったのだなと感じ、暖かい気持ちになりました。大勢の方に支えられて活動が続いている事に感謝して、これからも活動を一緒に頑張ろうという元気を貰えたキャンペーンでした。

●井田正美さん

さい帯血移植を受けた息子、主人と3人で参加しました。みんなで一緒に歩くことが出来てとても良かったです。沿道で偶然友人にも会ってびっくりしました。

●鈴木忠志さん

骨髄移植を受けた1万人の患者の一人としてパレードに参加しました。GVHDに苦しみました。GVHDに苦しみました。GVHDに苦しみました。

●中村福代さん

人間ひとりひとは孤独の中で生きていくけれど、骨髄移植1万例・さい帯血移植5千例：時空間を超えて繋がった人々がいました。私も、骨髄バンクを介して骨髄提供者となりましたが、この縁に『ありがとう』そして、ドナーを支えてくれた周



の理解と温かい思いやりの『ありがとう』を気付かされた。移植を受けた元気になられた方も一緒にパレードで歩きましたが、気持ちは15000人の患者さんと、その数倍の適合者の方々と共に歩いた気分です。もともととてどろどろと『おもしろい』の輪。みんな元気になる。

ありがとうキャンペーン協賛金・寄付	
(11/21~12/20)	
ヤマト微章株式会社	25,000円
大宮中央ライオンズクラブ	50,000円
福豊帝酸株式会社	50,000円
セルジーン株式会社	100,000円
鷺宮ライオンズクラブ	5,000円
森脇嘉三	5,000円
田中統一	5,000円
横山秀夫	10,000円
榎金寿司	5,000円
	(敬称略)

財団に2つの質問書を提出

全国協議会では、財団のマンスリーレポート(12月15日付)に掲載された平井全財団常務理事のコメントを受け、当該実行委員会における平井氏の出席時の言動、ならびに、財団法人としての公的組織の定期刊行物への個人的見解の掲載に関して、左記のとおり、正岡徹財団理事長宛の質問書を提出しました。本紙次号で、財団からの回答を掲載できることを願います。

全協第1936号
2008年12月22日

財団法人骨髄移植推進財団
理事長 正岡 徹 様

特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
理事長 中野 勝博

「骨髄移植10000例・さい帯血移植5000例ありがとうキャンペーン」実行委員会における貴財団出席者の対応について(質問)

拝啓 歳末ご多忙の折、貴職におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、12月2日にさい帯血バンクを介した非血縁者間さい帯血移植が5000例、翌3日には骨髄バンクを介した非血縁者間骨髄移植が10000例に到達しました。これに先立ち、貴財団、日本さい帯血バンクネットワークならびに全国協議会は、この機会を記念した「ありがとうキャンペーン」の実施に向けて8月25日に実行委員会を立ち上げ、3回にわたり具体的な事業内容について検討してきました。しかし残念ながら、共同記者会見の実施と第31回造血細胞移植学会での発表以外は合意に至らないまま、実行委員会は解散することとなりました。

それぞれの組織にはそれぞれの立場・意見があるのは当然であり、それにより必ずしも合意に至らないことはやむを得ないことです。しかしながら、多くの委員がそれぞれの立場を主張しつつも相手の意見も尊重し建設的な議論をしている最中に、貴財団を代表して参加されていた常務理事が、高圧的で会議をかく乱する発言を繰り返したことは誠に遺憾であります。

骨髄バンクの事業主体として関係機関との良好な関係構築に努めなければならない立場の常務理事のこのような態度は、事業を推進する上で極めて悪影響を及ぼすものであると言わざるを得ません。これが貴財団の対外交渉のスタンスであるならば、貴財団の良識が著しく疑われることになりかねないと思慮されますので、関係機関と円滑に協調した事業を推進する社会的責任を果たすためには、このような態度は早急に改善されるべきものであらうと思慮いたします。

つきましては、今回の件に関し、貴財団最高責任者である貴職の見解をお伺いし、下記の点について質問いたしますので、2009年1月9日(金)までに文書にてご回答くださいますようお願い申し上げます。なお、本質問状につきましては、全国協議会ニュース2009新年号の誌面で公開するとともに、貴職からのご回答につきましても全国協議会ニュースにて報告させていただきますのでご承知おきください。

敬具

記

質問事項

1. 実行委員会における貴財団常務理事の発言は、貴財団としてオーソライズされた公式見解として理解してよいのでしょうか。
2. 貴財団常務理事の実行委員会における態度は、貴財団の渉外のあり方として妥当なものとお考えでしょうか。
3. 貴財団の今回のような対応は、骨髄バンクの普及推進に悪影響を及ぼしかねないと思慮しております。今後、貴財団が関係機関とどのような関係を構築していきたいとお考えでしょうか。また、そのためにどのように取り組んでいくつもりでしょうか。

以上

全協第1937号
2008年12月22日

財団法人骨髄移植推進財団
理事長 正岡 徹 様

特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
理事長 中野 勝博

MONTHLY REPORT 12月15日号掲載記事について(質問)

拝啓 歳末ご多忙の折、貴職におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、貴財団発行のMONTHLY REPORT(平成20年12月15日号)に、「『東京の会通信200号』編集雑誌に対して」という記事が掲載されました。これは、貴財団常務理事である平井氏の文責で書かれたもので、同通信の編集雑誌に対する平井氏の個人的見解が示されたものであります。

このMONTHLY REPORTはそもそも、骨髄バンクの現状やトピックを広く発信するためのものであり、国民に向けた骨髄バンク事業に関する情報公開や普及啓発がその使命であると考えます。この目的に照らし合わせると、今回の記事はMONTHLY REPORTの趣旨にそぐわないものであり、財団の公の媒体を単なる個人的な問題のために利用したものとみなざるを得ません。

また、MONTHLY REPORTは財団のホームページにも掲載されており、不特定多数の人が閲覧できるものであります。このような性質を考慮するに、今回のような個人的な意見表明にMONTHLY REPORTを使用することは、正確な事情を理解し得ない多くの国民に対して不当に一方的な認識を植え付けるものであり、誤解を招くことになりかねません。とくに公益事業者としては、意識の誘導と受け止められかねない行為は厳に慎むべきと思慮いたします。

つきましては、今回の件に関し、財団最高責任者である貴職の見解をお伺いし、下記の点について質問いたしますので、2009年1月9日(金)までに文書にてご回答くださいますようお願い申し上げます。なお、本質問状につきましては、全国協議会ニュース新年号の誌面で公開するとともに、貴職からのご回答につきましても全国協議会ニュースにて報告させていただきますのでご承知おきください。

敬具

記

質問事項

1. 貴財団として、今回の記事は掲載が妥当であったとお考えでしょうか。また、それはいかなる理由によるものでしょうか。
2. 情報の発信はきわめて慎重に取り扱われるべき業務です。MONTHLY REPORTの掲載記事はどのようなプロセスで決定されているのでしょうか。
3. 貴財団として、公益事業者の情報提供のあり方をどのようにお考えでしょうか。

以上